

令和4年度 小竹町立病院事業特別会計

令和4年度 小竹町水道事業特別会計

決 算 審 査 意 見 書

小竹町監査委員

立 川 や よ い

小竹町監査委員

一 滴 浩 子

## 令和4年度小竹町立病院事業特別会計について

### 1 審査の概要

#### (1) 審査の日

令和5年7月27日

#### (2) 審査の場所

小竹町立病院

#### (3) 審査の手続き

令和4年度小竹町立病院事業特別会計に関する収入、支出の審査で、その決算額は次のとおりである。

(単位：円)

	予 算 額	決 算 額	予算に対する決算 の増減又は不用額
収益的収入	653,461,000	529,138,078	△ 124,322,922
収益的支出	642,534,000	569,275,062	73,258,938
差 引		△ 40,136,984	
資本的収入	17,382,000	17,382,000	0
資本的支出	17,382,000	17,381,323	677

※仮払消費税及び地方消費税含む。

この決算審査に当たっては、町長から提出された決算書類が、病院事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため会計帳票と証拠書類の照合のほか、(1)決算報告書、(2)損益計算書、(3)欠損金計算書、(4)欠損金処理計算書、(5)貸借対照表、(6)附属書類等の財務諸表を審査した。

### 2 審査の結果について

#### (1) 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、病院事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められる。

#### (2) 経営状況について

##### ア 経営成績について

令和4年度の病院事業の収支状況は、総収益、総費用ともに増加した。

総収益が増加した主な要因としては、コロナ禍で診察控えにより減少していた外来患者や入院患者が増加に転じたことによるものと推察される。

総費用が増加した主な要因としては、収入面でも述べた患者数の増加に伴う材料費等の増加によるものである。

また、消費税等を除いた収益的収支では39,907千円の純損失となり、危機的な決算状況となった。

(単位：円)

	令和3年度	令和4年度
医 業 収 益	410,223,386	486,810,053
医 業 費 用	539,521,169	550,082,069
医 業 利 益 (又は医業損失△)	△ 129,297,783	△ 63,272,016
医 業 外 収 益	43,618,789	40,321,344
医 業 外 費 用	9,053,106	12,147,840
経 常 利 益 (又は経常損失△)	△ 94,732,100	△ 35,098,512
特 別 利 益	9,007,021	0
特 別 損 失	1,844,209	4,808,336
当 年 度 純 利 益 (又は純損失△)	△ 87,569,288	△ 39,906,848

業務量の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度に対する増減
延 患 者 数	人 25,399	人 22,181	人 16,740	人 17,097	人 19,837	人 2,740
料 金 収 入	円 411,063,624	円 361,069,450	円 258,706,285	円 267,966,855	円 333,788,661	円 65,821,806

イ 財政状態について

(単位：円)

資 産	固 定 資 産	266,047,152
	流 動 資 産	252,611,088
	計	518,658,240
負 債	固 定 負 債	424,235,998
	流 動 負 債	359,460,767
	繰 延 収 益	184,426,378
	計	968,123,143
資 本	資 本 金	53,632,570
	剰 余 金	△ 503,097,473
	計	△ 449,464,903

以上、計数は正確であり、証拠書類及び関係諸帳簿も整備されていることが認められた。

令和4年度決算においては、新型コロナウイルスの影響を受けた前年度に比べ、入院、外来患者ともに増加傾向にはあるが、それでもなお多額の損失が生じた。

この危機的な状況を院長や事務長だけでなく、職員全員に周知徹底し危機感を共有すべきである。患者確保に向けて外部への広報による取り組みや、時間外手当についても数値目標を設定し費用削減に努める等、一人一人が経営改善へむけて、今出来る事に取り組んでいくような意識改革が必要である。また令和3年度に実施された外部監査による指摘事項については、病院だけでなく、町長や町幹部も含め町全体として検証を行い、改善策を模索されたい。

地域医療を確保する公的医療機関として、健全な経営により、住民の福祉に資する病院であることを切望する。

## 令和4年度小竹町水道事業特別会計について

### 1 審査の概要

#### (1) 審査の日

令和5年7月25日

#### (2) 審査の場所

小竹町役場

#### (3) 審査の手続き

令和4年度小竹町水道事業特別会計に関する収入、支出の審査で、その決算額は次のとおりである。

(単位：円)

	予 算 額	決 算 額	予算に対する決算 の増減又は不用額
収益的収入	238,784,000	240,345,002	1,561,002
収益的支出	269,014,000	225,581,736	43,432,264
差 引		14,763,266	
資本的収入	30,000,000	14,400,000	△ 15,600,000
資本的支出	58,661,000	41,346,630	17,314,370

※仮払消費税及び地方消費税含む。

この決算審査に当たっては、町長から提出された決算書類が、水道事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため会計帳票と証拠書類の照合のほか、(1)決算報告書、(2)損益計算書、(3)剰余金計算書、(4)剰余金処分計算書、(5)貸借対照表、(6)附属書類等の財務諸表を審査した。

### 2 審査の結果について

#### (1) 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、水道事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められる。

#### (2) 経営状況について

##### ア 経営成績について

令和4年度は、総収益223,693千円、総費用210,846千円、差引き純利益12,847千円となり、黒字となった。主な要因としては、収益において給水収益の増及び受託工事による営業収益があったことや、費用において原水及び浄水費の修繕料などが減となったことによるものである。

また、次表に示すとおり、給水人口の減少に伴い、前年度同様に営業費用を営業収益で賄えない状況が続いており、抜本的経営改革を迫られていると言わざるを得ない。

(単位：円)

	令和3年度	令和4年度
営業収益	152,086,128	157,029,245
営業費用	183,321,473	158,157,022
営業利益 (又は営業損失△)	△ 31,235,345	△ 1,127,777
営業外収益	71,101,077	66,663,523
営業外費用	54,376,440	42,528,405
経常利益 (又は経常損失△)	△ 14,510,708	23,007,341
特別利益	0	0
特別損失	13,880	10,160,295
当年度純利益 (又は純損失△)	△ 14,524,588	12,847,046

業務量の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度に対する増減
給水人口	人 7,663	人 7,469	人 7,377	人 7,180	人 7,047	人 △ 133
給水収入	円 153,334,676	円 148,947,390	円 143,364,474	円 150,781,964	円 155,605,910	円 4,823,946

イ 財政状態について

(単位：円)

資 産	固 定 資 産	604,500,345
	流 動 資 産	164,001,973
	計	768,502,318
負 債	固 定 負 債	270,619,277
	流 動 負 債	68,632,585
	繰 延 収 益	122,415,637
	計	461,667,499
資 本	資 本 金	240,150,090
	剰 余 金	66,684,729
	計	306,834,819

以上、計数は正確であり、証拠書類及び関係諸帳簿も整備されていることが認められた。

給水人口は年々減少しており、現状では給水収益の増加が望めない状況にあるが徴収率は近年毎年上昇しており、徴収努力は認められる。これを継続し、僅かでも多くの収益確保に努められたい。

その他にも、各施設の老朽化に伴う更新及び修繕需要を見込み、平成29年度から継続的に地方債を発行しているため、今後その償還金が増加することによる経営状況への影響も懸念される。地方債の発行は計画的かつ必要最小限とし、合わせて人件費等含んだ経費の節減を徹底されたい。

先にも述べたとおり、営業費用が営業収益で賄えない状況が続いており、抜本的改革を余儀なくされていると言える。将来に向けて安定した給配水事業を確保するため、令和5年度設置予定の審議会において十分に議論・調査研究され、最善の経営に努められたい。